

非暴力直接行動

NO
160
'88
9/11

AVAR PRESS INTERNATIONAL - JAPAN

一冊百円 年間購読カ、ハ千共一五〇〇円以上

発行・(WRI)ウリ・水田ふう・向井孝・大阪市あべの区九軒町一六-1-1307 (Tel.06-667-4089)

ガノン 非暴力 入破記

1 太目のうどん

ふうふうふう

▼ いやあ、官カメラちゅうもん飲んだけど
之らい目にあうた。

● ぼく、ちやうと席はずして、戻ったら待
合室におれへん。付添いとして、もうあわて
たなア。

▼ なにか「太目のうどんを飲むようなもん
や」。ありや直至ニセンチはある。

● 直入禁止の診察室へはいって、どどカ
ーテンのすき面から覗いたら、ベットで横わ
きに、口に残いクツワを嵌められてるやんか。

▼ 長いクダをつ、くように押したり、ギイギイ引ッ
ぱったり、ゲエゲエで生きた心地せえへんかった。もう



クダのちよつとした動きにも、ビクツと体が反応して、全身が硬直してしまうねん。

● 終つたらグツタリ、肩こつて、首こつて、熱が出て、いっぺんに病々になつてしまふね。

▼ 次の朝、さかえさんにマツサージしてもらつてやつとなおつたけど……

● 「非暴力トレーニング」で、体をやわらかくするコツやつてたのがどないなつたんや

▼ うん、それ思ひ出して、体をラクにーといっしょうけんのいぢかしたんやけど、ながい棒つっこまれたみたいでどうしてもアカン。

● 「せりどみ」なんかで機動隊に「排除」で持つていかれる場合など、結構リラックスして、からだ全体がニヤとできるのに。

▼ これで一つわかつたんは、「排除」やつたら、これからどうなるか大凡見当がつくけど、はじめのめくとは何が起るか判れへんいう不安で、つい身構えてしまふねん

● しかし「非暴力トレーニング」いうのは、それまでの経験と省察から引き出した「その時々々の事態に対応す

る「ツ」、云いかえたら「技術」を、未経験のことにも応用できる、心のうけとめろ、からだの動きが、云いかえたら一般性をもつた「方法」として、身につけるという訓練なんやで。

▼ 「未知」で「未経験」で「不安」な時にこそ、トレーニングの効果があらわれへんかつたら、トレーニングの意味がないーいことか。

● なんども実験して、その上トレーニングしてたら、うまくいふことやれるの、当りまえや

▼ 「うちら「排除」のときは、ま、トレーニングのときみたいに気象にやれてるもんや。

● そうや、それが日頃から非暴力トレーニングをやつてきた

ねうちや。

▼ そやつたな。

それでおいちゃんがかうどい位に「トレーニングの気持ちで、何でも



★ 5月13日・12時ごろから手術準備・1時執刀・5〜6時ごろ病室（母子室）に戻る予定です

★9月20日頃までの約一週間は、面会禁止・連絡は姉・母・父へ向けて下さい。

やらなアカンというわけや。

● どうしてもやらねばならん事態に直面して、緊張したとき、それを「トレーニング」と思いうてやる。

▼ 判った。たとえば、胃カメラをのまなアカンとき、それを「トレーニング」としてしゃつたらエエねん。

● それや、「非暴力直接行動」は、そやから「トレーニング」とは切つても切れへん。不可分不可欠や。

▼ よっしや。これで、胃袋とる手術も、なんでもかんでも、みいんな「トレーニング」やとおもて。気らくにしてくるか。

2

トレーニング 癌相肉

★ ふうさん、いまこんなにピンピンして、ほんまにガンがいな。

▼ ニカ月ほどまよから時々、胃がにぶく痛がってん。で7月28日、市大病院にいったらレントゲンとつてみるかわれて、8月11日にバリウムのんでレントゲン撮影。17

日その結果をききにいくと、内科の医者がいきなり、「これは切らんとがメですわね」「外科へまわすので、そつちで胃カメラのし。8月24日、おいちゃんにも同道してもらマア外科で診察うけたら、レントゲン写真を見て、さらにお腹のあつちこつちをさわつたあと、「これ切らなアカン」と云われて……

★ それだけやつたら、胃かいようかもしれへんやん。

▼ そいでな、うちもあれこれしつこくきいたんや。「もし切らなんだらごないなります」「あんだ、しかしはおしにすんでしようしいうて、ガンとも胃かいようとも、何やとは云えへん。「レントゲン写真を見ると、ちよつとその顔(貌)がわるいんやて」

● それで、そのあとふう子さんが血液検査室にまわされたくて、ぼくも一緒についていこおもて、何気なしに立ちよつた。そして、婦長らしい看護婦さんが、つつつとよつてきて、とつぜん、ぼくの右袖下をゲインと引っばって、合図するわん。

そのときのー強く、看護婦さんに袖をひっぱられてよろけて、尻もちついたようにへたへたとイスに坐つて、あ、

やつぱり……と思つたときの、グイと引つぱられた感。いまでも残ってる。

★ それ、ようわかるわ

● 医者と向きあうてるねんけど、「ガンの疑い濃厚……」いうのだけが耳にはいつて、あとはまるで、聞こえへんねん。心臓が「ガン」がタン鳴つて、足許が、谷屋へ木の葉になつて舞い落ちる気で……。

▼ そいでおいちゃん、何もきいてくれへんかったの。

● いや、ここでしっかりふう子さんに代つて、きくべきことをきいとかなアカン。そのまゝにまずぼく自身がしっかりせなアカン。冷静な平常心をとりもどさなアカン。と走馬灯みたいにアカン、アカンがならんできてーというてもしゆんやろけどー体が、がんじがらめになつて、息もでけへんーそいでこらアカンというのがアカンいうのは……と気付いて……

▼ こつちの胃カメラのときと同じやな。

● そいで大きく息をすづてはいて、医者に「すんません、ちよつと待つて下さい」いうてから、「おんあばギヤあべえろしやの……」と呪文を三へん。

★ なに、それ……お経？

● ちよつと表現

がしにくいんやけ

ど、重たーいそ

んを（まとも

に受けとめるんや

なしにし、自分をそ

の重たいものと一しよに

なつて呼吸するーとか、自分自身の存在を、どーんと周りにすべてゆだねて、あるがままにふあーつとした風のそよぎになるーというか……そやな、ちようど海のまん中にくりかえしうちよせる波の、行つては戻りしてゆらいでる材木のうごきみたいは、無力無心になつて、ものごとを感いうけとめるーま、おまじないや。そしてら、まわりが一ぺんにはつきりみえてきて、頭がいまいきうごき出す……

★ へえー、おまじないで、そんなふうまいこと、気分を変へるこゝろができる？

▼ 「あわてないで」のパンフの、「ガサの心得」で、早朝ドンドーンと戸が叩かれて、「あっ、ガサやしとおもっ



★ おはげましのハガキは病床のなぐさめやとおもいますのでおひまがあればぜひ！

★ 実名は、すぐ居けられるので大塚市あぐろの加戸一太、一三三〇七 水田ふうでー



たら、まず、台所へ

いつて、ゆっくり

水をコップにー

はい飲む、い

うコップ同じ方

法で、おまじな

いは、何でもよう

て、あつとそれを思い出した、おいちゃんがいっつもなう

てるー移動と「転換」がーもうはじまつてる、いうことや

ね。

★ まわりがはつきり息をマキたて、どんなふうな一

● 一しゅん、ぽつと判ったーという感じで、ことばにし

たら、過剰になつてしまふんやけどー

「そうや、もうずつと前から、ふう子さんの生き死には

そのまま、ぼくの生き死にやつたんや。ふう子さんと一し

よにすることやつたら、どんなことでも、なんでも、ぼく

のよろこびや。ふう子さんがガンやーといわれても、そ

れが急に変わった、いうわけやあらへん。かえつてそのく

かよけいにはつきりして、ぼくとふう子さんは、今までよ

り以上一層にいつかりとつながりができたといい

「その上、ふう子さんの今日は、特別魅力的で、話かけ、

わらい、ぼくのそばにぴったりくっついてるそのしぐさ

のひとつひとつが素晴らしい。すごい。こんなふう子さん

と、いまこのときを一生にすごす、いまの至福は、何に

もかえられぬ……と。

▼ うわぁ、えらいこつちや

★ そんな「転換」どうしてらできるんやろ、「あつ」と

おもい出すいの、なかなかむずかしいで。

● それを「非暴力トレーニング」で、体得するねん。

3 ヤっかくガンになつたんから

ガンを4載一週のチャンスとて

● それにしても、ぼくはふう子さんに、どっつう助けら

れた。ほんまに今迄とまるでかわりのない平常で、ガ

ンバつてくれて……

★ それシヤレ？でもふう子んやつぱりスゴイ。8月

は、それまでに予定してたことの全部をこなして、その上
つとめにも毎日いつてー平気で…。

▼ うんひとっだけでけへんかったんは、8月31日、福岡
地裁「Tシャツ訴訟」に出席して、陳述するという約束…
● あれはしょうがないで。その日、買カメラのむと指定
されて、行くに行けん。その代り、エライ苦労して、「欠
席の年」いうのをかいて、フアックスで送った…

▼ 地裁でルイスさんがよんでくれはつて、裁判長も、神妙
にきくし、傍聴席でハンカチを眼にあてるいう風景をみ
つたそうや

★ それのコピーみせてやる。うちが責だしてよむさかい
…。

〃 欠席の年 〃

細股裁判長様

今日の法廷には必ず出席して、「陳述」というものをす
るつもりでいたんですが、どうしても出席できなくなっ
てしまいました。

わたくしごとであれですが、8月24日、私は大阪市大

↑病院が二内科及びカー外科のお医者さんから、「胃ガン
の疑い」と診断されて、至急入院手続きをして、手術する
ようにと云い渡されたのです。

で31日は手術前の精密検査日で、薄多へでかけることが
できなくなったのです。とても残念です。

細股裁判長様

胃ガンの疑いと云われてひなりのショックやったんですが
でも初期ガンなら手術したら百%なるといわれ、希望
をもちていたんですが、初期ではなく

中期やといわれ、もう日の薙が
まつくらになつて、しばらく
は立上れませんでした。

まるで「死刑宣告」を食った
気分です。

帰宅してから、胸がしめつ
けられるようなひんじで、呼
吸が苦しくて、すぐフトンに
もぐりこんで放心状態でした。



★「非暴力直接行動」は年間千五百円の購読料をバを送っ
て下さった方に（送付用封筒を封じ付くつておき）発行毎に送
ります。★封筒がきれいかけたときは「封筒がきれいな」封筒をい





と表書きをふくらせします。★封切りの通知にご注意ない
と、封筒がなくななり、発送が自前減します。ご留意下さい。
★交際費キゾーは、夜に手紙の裏書きを切りとて封筒一枚分
に貼る。★封筒の裏書きを切りとて封筒一枚分に貼る。

そのとき、ふつと大道将司くん益永利明くんのことを
思い出したのです。

細股裁判長様

舌を直してみると私の場合、そのガンの宣告は、いわ
ば、まだ一審の「検事の死刑裁判しぐらいのところや
と思うんです。私はまだ「死」が決まっちゃったわ
けやなくて、望みが残されているわけです。

いや、それにもまして、いまこうして自分がガンと宣告
されることで気付くことになった、自分の一日一日の「生」、
そしてその日々の「いとなみ」が、何よりもこよいの大
切なものとして、私の手に、いま、あります。
それゆえ、いつそうはつきりと気付くのです。

獄中の彼らふたりの「生」は、と。

そしてその一日一日をこよいのものとしてまえる。「生
のいとなみ」は、と。

その一日一日を、この上なく大事なものとして扱うこと
が、彼らには許されていないということが――

細股裁判長様

彼らふたりは、「確定死
刑囚」だから、私とはち
がう扱いが当り前や、と
いう理由が云われるのか
もしれません
では、いま彼らの状況にぐつと

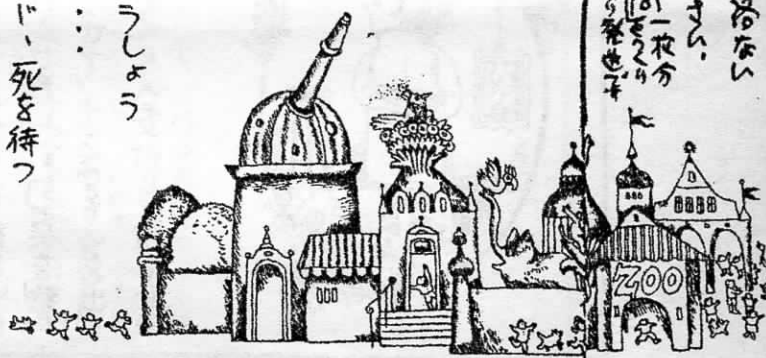
私を近づけて、私がすでに、どうしやう
もない末期ガンだとしたら……

そして私に、残されたものは、ただ、死を待つ
だけの「時間」にだとしたら……

それでもなお私は、その刻々の時間を、自分のおそいき尽
して、「いま」を「充分に生きよう」とねがうでしょう。
その当然の、私と同じねがいを、彼らふたりは、死刑囚
ゆえにあきらのねばならぬ、とちうのではありませんか。

細股裁判長様

私が、ガンを不意に宣告され、今日の法廷にも出られなく



なつたことで、いま、はつきりと見えることがあります。
それは、私のかげがそのない友人である共同原告、大道寺持司くん・益永利明くんの日々の「生」が、今日も、ひとつひとつの事柄において、抹消されていることです。
一日一日の生きがい、「生きる意味」をとりあげられていることです。

生きながら「死」にひとしい「生」を、いまおしつけられて、右の手をつかねて死を待つだけという、この上なく残酷で、非人道的な処遇が、法の名を盗んで、被告の「国・東京拘置所」によってつけられていているということです。

かんであつても、まだ私が「いま」生きているように、彼らもまた「いま」一刻一刻を生きているのです。

そのこよなく大事な「いま」を、どうが彼らの手にしかとにぎらせて下さるおねがいします。

御殿裁判長様

一九八八・八・三

原告 水田ふうこと生和佐知子



● この「欠席の井」の強い印象が、裁判長をゆりうごかして、前日まで交渉してとても見込みがなかった「甲号証」の大道寺・益永くんへの交付請求が、あっさり認められたんやーと、裁判所前に立よつてくれた伊藤さんたちがさうのをきいてぼくもふうせんも思わずうれし泣き。
★ その「甲号証」してなにのこと。

● 獄外の原告へわたしらから獄中原告の大道寺くんらへ、今までに送つて、東拘で差止められた「手紙類」「申入書類」その他26の種などのパンフ類に計55点を裁判所へ「書証」として提出、あわせて、こんなものを出したよと知らせるために、大道寺くんらへ交付してほしいと請求してたんや。

▼ 欠席の井、かく

のがほんまにしん
どかつた。けど
こんなチャンス
は千載の一遇で
つくろうとしてぞ
てきるこつちやない。



せつかく、ガン
になつたんやが
ら、そのガンを
モ、武屋にして、
私のできること
をーとおもて書いた

んやけど、おもいあまつて

ことばが浮いてしまふわん。ペンが途中でまると、
ー大森寺さん、益永さんと心の中ではなく、んも呼びな
から書いたんや。

● ふう子さんが、とつぜん改まって、「おいちゃんか
うに運命にさからわず、遂にチャンスとしてとらえる
を、しつかり心にとめて、そうするわ」いうけど、それ
が、この「穴席の井」にもはつきり出てる。ほんまにほく
なんが、きみの足下にも及べへん……。

どんなガンも、きつとふう子さんには降参する！

▼ ほんま？うちおいちゃんの言うこと、絶対にまちが
えへんと信じてるでえ。頼むな。



「平井孝治さんを釈放させねば
電柱を撤去せよ」と九州電力
をおどした水口洋子さん
九電株主総会行動に参加して、
平井孝治さんの逮捕現場にいた水
口洋子さんは、その怒りが鎮まら
ぬままに、家に帰ってから九電本
社に電話を入れて、自宅敷地内に
ある「電柱の撤去」を要求した。
「そういう件は中津の営業所に連
絡して下さい」という返事に、
「なぜ私がわざわざ本店に電話し
ているか分りますか。昨日の平井
さんの逮捕は何ごとですか……」
と怒りを爆発させると、「はっ、
直ちにこちらから中津営業所に連
絡します」と慌てて電話は切れた。

草の根通信 第189号

そして、三〇分後には早くも中
津営業所から二人が飛んで来て、
「失礼しました。これまで借地料
も払っていませんで……現金を持
参しましたから、撤去の件はごか
んべんを」と平謝り。
「平井さんが逮捕されるまでの借
地料はいただきますが、昨日以降
は電柱を認めませんから、計算し
なおして来て下さい」ということ
で帰ってもらったが、そのあと平
井さん釈放を知り、一応今回の電
柱撤去は見合わせることにした。
敷地内の電柱撤去は要求すれば
電力会社は応じなければならぬ
電柱を持つ家は大いにおどしに活
用して下さい。

1988年8月5日

7.11 島根原発 集中電話

作戦余話 ①

★7月11日、島根原発二号炉試運転開始の日。反対集会に行けなかった私はとうとうこの狭すぎる日本に三七番目の原発を許してしまった、と苛立っていました。そこへ、NHKの一時のニュースが流れてきました。

「今日、試運転を開始したばかりの島根原発二号炉で、タービンが回らなくなるという事態が発生しました。このため……」

エーッと、あいた口がふさがりません。なんというおそまつさ。これはひとこと言っておかねばと、体はすでに電話の前に。株主総会での平井氏の逮捕以来、抗議電話に励んでいた私、指が勝手にダイヤルを回し始めるんですから、恐いですね。

まずは島根原発へ。交換手も、次に出て来た男性も、相当苛立っている様子が伝わってきます。試運転開始と同時に事故という前代未聞の出来事に現場はパニック状態なのでしょう。

小気味いい思いで中国電力本店（広島）のダイヤルを回します。ここでは必ず広報課の人が応対してくれます。「もしもし、島根の二号炉は、いまだ

うなっているのですか」

「本日、試運転に入り、現在運転中です」と、いつものんびりした返事に私の方がびくびくしてしまふ。

「えっ、だっていまは停止してるんですよう？」

「はあ？停止して、なんのことですか」なんとということ、中国電力本店は二号炉が停止していることを本当に知らないようなのです。

「えーっ、あなた、まだ知らないんですか。事故が起きて、もう止まってるんですよ。連絡来てないんですか」

「ちょ、ちょっと待って下さい」電話の向こうでの相当あわてた様子が筒抜けです。一、二分して、

「どうしてわかったのですか」

「だって、ニュースで言っていましたよ」

「ニュースって、NHKですか？一時のニュースですか」

「そうですよ。もう全国の人が知ってますよ」

「……、ちょっと待って下さい」今度は四、五分が経過して、やっと出て来ました。

「もし、もし、お待たせしました。確かに、いま故障で停止しています。電気系統の故障で、早急に原因を調べています」

何言ってるのよ、それ、私がかき言った事じゃない。もっと、まじな

事が言えんですか！

「しっかりして下さいね。原因がわかってても永久に動かさないで下さいよ」

「はあ……」これは本当にあった電話問答なんです、皆さん信じられますか。

私から話を聞いた友人が、このあとすぐに島根原発に電話を入れ、「中電の広報の人は、何も知らなかった」と告げると、相手は興奮して、「そんな

はずはない。そんな事を言ったのは、広報の何という奴だっ」と叫んだそうです。あとでやっと、内輪もめが起きたのではないでしょう。

真相は、試運転抗議の電話が島根原発に全国から殺到し、回線がパンクして、停止の報告が本店にできなかったんです。直通電話もないのかしらねえ。

詫間幸江（宇佐市）



★国会事務所を、これらふうさんが心配しています。「死刑執行停止」のために署名あつめに協力をお願いします(向井)

7.11島根原野電話集中作戦余聞 ②

▼7.11電話作戦は大成功でした。後に、中電社員にきいたところによれば、島根原野は4回線電話があり、それが11日の午前中は、抗議電話が鳴りつづき、その応待に追われ仕事にならなかつたしよし。トラブルが起つた際、原子炉をとめるかどうか、広島の本社の指示を得ようとしたそうですが、回線が全部ひさがっている為、連絡がつかずあぐれにあぐれたとも云われています。それが事故発表のあぐれともなつた原因になつたらしいようです。

(松江市 Fさん)



8月3日(水) 蛇の会というニュース番組。

8月4日(木) 「あつてないでしを再訪することになって、

打合せ会、中北(中島)と向井、丸尾、

8月5日 市助党主催の、命がだいじーまだ面に合います、という反原発集会に呼ばれて、一時間の講演。会場は阿倍

野区役所大ホール。二百人以上来てはつたけど、殆ど動員女の人は数えるほど。広い会場と男ばかりのフニキに大いにとまどつてしどろもどろ。四国高松以来、組合も反原に力きいれようとしてるみたい。運動のスタイルも変え、やわらかくしようという感じは伝わってきた。私みたいはもんをよんでくれる人から。

8月11日 大阪市大病院で、バリウムを飲んで胃のレントゲンをとる。私だけのこされて、とり直し。イヤな気分。8月17日 11日につつレントゲンのフィルムをみて、内科医が「これは切らなダメですわ」という。いきなり切るといわれてあわてる。「外科へまわす。そこで胃カメラをのめ」とも云われる。

8月20日 朝7時の新幹線で上京。25日のシヤコウ判決にゆけぬので、今日、面会に。裁判長内藤のガマシ討ち的結審が頭にくるが、シヤコウはシヤコウのペースでやればよいのサ。4時すぎ、迷つて、全国救済会(神奈川県大山)へ。大田市の百人以上にびくくりする。私は死刑廃止の会科会に参加。12日すぎ、晴路、浦和のたけことひろさんに面会。(丁君と同道) たけもとさん、短き

パンはいて元気そうやったけど、まもなく(10月?)の判決をひかえて、あまりいい気分ではないといっていた。ほんまに待つらやうのは、イヤなもんやね。

8月24日 オ一外科での診断、レントゲン室直さみ。おなかのあたりをさわったあと「これは切らなアカンし。おいちやんには「胃ガンの疑い濃厚」に「すぐ入院手術をして下さい。」と。

8月28日 原整なしでくらしたいー映画上映と講演のつどい。(10団体ほどでつくった実行委主催、尼ヶ崎入場所中小企業センター)によられて、一時あまり話をする。この集りに私をよんでくれた皆さんの役が外科医だったのので会の終了後、この間の経過を聞いてもらつたら、「内科が望みめて切れいうのは、大分すくんでる、初期やのうて、ひよつと中期かもしれん」で、手術せなんだらどうなるのし「あと半年やないとおわれてシヨック。家へかえつたらーべんに力がぬけ、立ってられへんのでぶとんしいてねてしまふ。で夜の時ごろ、ちよつとお腹へつてきけりで、「よっしや、めしつくってたべよ。ここで気持をひっくりかえさんと」と「ヤンタン」をかえすように、心きひつく

ワウチ利乃余加由乃要以止葉 喫天尔乃里越

りかえしたう。どうやら元通りになった。トレーニング・レーニング。

8月30日 Tシャツ訴訟公判、欠席の件、をフアックスで送つて、ほつとする。今日でつとめの一応やめる。

8月31日 胃カメウをのむ、斜辺セイリなどで大忙。

(以上ふう記)

▼ 9月5日 ふう子さん入院。自覚症状殆どなく今迄どおりの元気。(ときどき微熱・時期病せんそく?のせき、くしやみ)6日だけ神妙にしてたものの7日から一日一四外出許可とつて戻ってくる。家までくる(か) ▼ ふう子さん本名、生和佐知子。病院は、西條野区旭町一五七、大阪市大病院北館5F(カ一外科(高橋) 坂冬雲(16名健))

▼ 9月8日、細胞ばい菌などの結果、ガンとの診断。
▼ 手術予定日、9月13日(必)術後二週間は面会禁止。

このこと、付添子もじやまになるので原則として不要と。
◎ 直接お手紙差上げおれなり親をなすりしなればならぬところ、ばたばたと附件多く、この紙面で代用する生人おゆるし下さい。思いもかけの方からもおはげまし頂いて、ほんとにありがたく感謝しています。きつと大丈夫です。(おま)

振替 大阪一三三七三七 ウリジャマン